



しっていますか？ シックスクール



放射能汚染廃棄物の再利用にリスクはないのか

環境省は、災害廃棄物をリサイクルした場合、「製品の放射性セシウム濃度のクリアランスレベル(これ以下なら放射性物質としての規制を行わないという基準)を100ベクレル/kg と考える」としています。放射性廃棄物の再生利用は、木くずをボード原料にしたり、焼却灰をセメント原料に利用するケースが想定され、セメントがコンクリートとして利用される場合には2倍まで希釈されるので200ベクレル/kg まで許容されるそうです。

今までは、法律上、原発廃材は何に使おうが追跡記録も表示も不要で、鍋やフライパンへの再利用も可能でした。しかし、市民の反対運動の結果、環境省が国会で、「万が一を考えて廃材がどこに行ったかトレーサビリティをしっかりと持たないといけない」と答弁し、『クリアランス廃棄物情報システム』を構築し、データを登録するようになったので、放射能を含む廃材はどこで何になったか分かっています。ところが、震災後の改定ガイドラインでは、「災害廃棄物の再生利用は、何にどう使おうが自由で、トレーサビリティも不要」とされているのだそうです。さらに、災害廃棄物の埋め立て可能な目安として8000ベクレル/kg という桁外れな値が示されています。原料のおよそ半分に、放射能ごみ焼却灰などを使用したセメントは、『エコセメント』と名付けられ、普通セメントよりも基準の緩いJIS規格も設けられているとか。昨年、千葉県ではこの『エコセメント』から1千ベクレル超えのセシウムを含む水が東京湾に流れ出していて問題になりました。さらに、同県の焼却施設から基準値以上の放射性物質を含んだ灰が、北九州に運ばれていました。横浜市では、公園や宅地造成にまで放射性物質入りの改良土が使用されていました。今年になって、廃棄物ではありませんが、福島県の放射能汚染採石が、マンションや学校、通学路、民家、病院、駐車場、農地などに使われていたことが判明しました。

私たちは、この恐ろしい放射能事故を初めて経験するものではありません。チェルノブイリ事故を経験しているのです。そこから何も学ばない愚かな指導者のもとで日本は北から南まで万遍なく被ばくさせられていくのです。

トレーサビリティ: 物品の流通経路を生産段階から最終消費段階あるいは廃棄段階まで追跡が可能な状態。

みんなの思う日本の地図



泊原発: やっと行なわれた後志管内 20 市町村長協議…中身は？

札幌市が、泊原発に関しての意見交換の場への参加要請を行ってから4ヶ月。やっとその話し合いが倶知安町で行なわれましたが、札幌市は参加できず、一部の首長の希望で非公開となり、マスコミも市民もシャットアウト。そんな密室で何が話し合われたのか。報道によると、EPZ4 町村からはまったく発言がなく、防災対策について発言したのは9人だけ。今回初めて参加した小樽市長は「UPZ(13町村)は単純に30キロとくらず、自然条件などを加味してほしい」と要望。蘭越の副町長は、「見直しの進め方が遅く、もっとスピードをあげて。いつまでに見直すのか」と指摘したそうですが、道からは明確な答えはなかったそうです。貴重な税金と時間をかけて、ろくな話し合いがもたれなかったようです。

この話し合いを新聞報道で知った脱原発団体の『しりべし女たちの広場』のメンバーが、当日会場前で、安全協定の拡大などを求める要望書を各首長に手渡しました。要望書では、原子炉の新設や再稼働など重要な事項についての事前了解を13町村の合意で行なうよう道に要請して欲しいと訴えましたが、今回の協議では話題にならなかったということです。

ちなみに、この要望書を受け取らなかった首長もいたそうです。それは小樽、共和、岩内、古平。同団体はこれらの首長には郵送すること。小樽市長に至っては、「小樽市長さんですね」と話しかけても「違います」と言って逃げたとか。恥ずかしいので、そんな姑息な態度は二度ととらないで欲しいものです。

小樽・子どもの環境を考える親の会

連絡先 0134(25)1182 or(27)5100
e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp
http://blogs.yahoo.co.jp/kankitiaio
No.95 2012年2月
郵便振替 02760-4-77134 1100 円/年



子宮頸ガンワクチン・ガーダシル 遺伝子組換えされたHPV(ヒトパピローマウイルス)が混入

11年9月にアメリカにおいてメルク社の子宮頸がんワクチン・ガーダシルに遺伝子組換えされたHPVが混入、汚染されていたことが、セイン・ボックス社(外部のワクチン安全性調査会社)の調査により判明したそうです。HPVが混入されていたのは、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、スペイン、ポーランド、フランスへ輸出されたバイアル。ガーダシルは、日本でも7月に厚生省の認可を受け、子宮頸がんワクチン接種は、英グラクソ・スミス・クライン社のサーバリックスかこのガーダシルのどちらかを選択できるようになっています。詳しくは、『THINKER』HPを。



左の広告は、子宮頸ガンワクチンの製造販売元である『グラクソ・スミスクライン』の全面広告です！(北海道新聞12月17日朝刊)。ここには、女子の50%、二人に一人がすでにワクチンを接種したと煽っています。さらにこの上段には、近畿大名譽教授が「お母さんの理解が、10年後20年後の娘さんの健康を守るのです」といって、10代前半での接種が最も効果的だとさらに煽っています。

新聞は、プルサーマル発電や、ニューモの宣伝をずっと掲載してきました。今度は、これ？大丈夫？このワクチンでなくなった子が何人もいます。

広告は都合の悪いことは掲載しません。本当にワクチンは必要ですか？正しい性教育と、適切な時期に受けるがん検診で十分ではありませんか？

子宮頸がんが20代の女性に増えてきた理由には、この10年間における若い女性の性感染症の急増があげられています。しかし、日本の性教育は進んでいません。10代から20代の女性の性感染症や避妊に対する知識は不足気味だとか。自分の体や心を大事にできる人は、他人のことも大事にできます。男女問わずワクチンより小さなうちからの正しい性教育のほうが大事なではありませんか。



修学旅行どうする？東北に行かせますか？

東北観光推進機構は、余震や放射性物質への懸念から東北以外から東北を訪れる学校について「およそ、9割減。全滅に近い」と発表しています。

震災前、札幌市の公立中学校97校中96校が青森、秋田、岩手の東北3県を修学旅行先にしていましたが、去年は、96校すべてが北海道内に変更。他にも宮城、松島など東北の観光地には、多くの道内の中学校が修学旅行に訪れていましたが、約120校が東北から道内に変えたということです。同機構によると、首都圏や関西、九州からのキャンセルもあるといいます。担当者は、「被害もなく放射線量の測定値が低い地域もあり、『問題ない』という情報を発信しているが、どうしても原発事故に保護者が敏感に反応してしまうようだ」と話しているそうですが、それは、まともな親の判断でしょう。それより、「被害もなく」というのは、どういうことでしょうか。

福島県観光物産交流協会によると、会津若松市には、例年約500校が修学旅行で訪れていたが、去年は30校程度だったといいます。えっ？30校も行ったの？と思うのは私だけでしょうか。

社団法人全国旅行業協会の『東日本大震災からの観光復興支援に関する決議』5項目では、・福島県をはじめ、東北地方各地への修学旅行のキャンセルが相次いでいることに鑑み、修学旅行の東北地方への誘致に努めること。

・震災・原発の影響で深刻な状況にある東北各県の風評被害を少しでも防ぐため、イベント等において、東北地方産の野菜や食材を使ってもらえるように働きかけること。
などといった決議文があります。

ある中学校の教員は、この『決議』文を見て、「修学旅行先を東北地方に戻す動きが出始めている。復興を待ち望む気持ちは理解できるが、ことは生徒の健康に重大な影響を与える内容だけに冷静に対処することが重要だ。我が子を放射能で汚染された地域に「復興支援名目」で修学旅行にだすような保護者がいると思うのだろうか？ましてや野菜や食材をどんどん使うように働きかけるに至っては常軌を逸している」と厳しく批判しています。

保護者の中には、「子どもは被ばくしやういと聞いている。先生が正義漢に燃えて「復興のために東北に行こう」とかいったら嫌だ」、「福島に行くということは現地の食材を食べることになると思うのですが、大丈夫なのか」といった声も。あなたは、どう考えますか？

ちなみに、小樽市内のS中学校では、保護者に修学旅行のアンケート調査をし、行きたい場所(東北 or 北海道内)、理由など書かせています。結果はどうなるのでしょうか。

渡辺雄二さん講演会「身の回りにはこんなに有害物質があふれている」から

■次々出てくる除菌・消臭剤

日常使われている化学物質は、約 10 万と言われています。合成添加物、農薬、殺虫剤、除菌剤、化粧品、医薬品などです。消費者にほとんど必要ないものです。完璧に安全といえるものはほとんどありません。作っている科学者も、国も、利用者も分からない。動物実験のデータをもとに、安全だろうという推定をして使っているにすぎません。利用者の体験によって最終的には分かることになります。個人差があるので敏感な人は化学物質で症状が起こりますが、体が弱いということではなく、有害なものを寄せつけないようにするために反応が出てしまうと考えられます。

ファブリーズ、リセッシュ、ルックきれいのミストなどの除菌・消臭スプレーが出ています。さらに大幸薬品が、インフルエンザ対策として、室内を無菌化する商品「クレベリン」を出しました。二酸化塩素が細菌を殺します。毒ガスとしても使われ、死亡事故を起こし、「混ぜるな危険」という表示がされるようになった塩素ガスよりも、二酸化塩素は 4 倍以上急性毒性が強いのです。吸い込んだ人間の肺が傷つくし、過敏症の人はてきめんに出るでしょう。企業は濃度が低いから影響が出ないとしていますが、推定でしかありません。空気中にはカビ、ウィルスが浮遊していてもほとんど害はありません。消費者の不安につけ込んで売っているので、販売をやめるように言ったのですが、テレビで宣伝も始めました。手ピカジェルも売れているようですが、ウィルスは水道水で流せばいいだけです。使っている人がいたら、やめるように言ってください。

■トイレ用消臭剤

「トイレその後に」の小林製薬は、“あったらいいな”という商品をいろいろ出していますが、“あったらいいな”は、“なくてもいいよ”なのです。「ブルーレットおくだけ」は、飛行機の、水を循環して使っているトイレ排水の色から思いついたそうですが、そもそも普通のトイレは、必要もないし、水に色がついたら便の色が確認できません。トイレ用消臭剤は LP ガスが入っていて危険だし、過敏症の原因にもなります。2000 年の国民生活センターの商品テストでは、TVOC が暫定基準値を越えました。便は臭いのはしょうがないのであって、換気扇か窓で換気すればいいものです。

シックハウス原因物質に対する指針値は、これ以下だと発症しないだろうという推測の値です。原因を断つのが一番で、もともと不必要な製品をお金を払って買って、室内に化学物質を撒き散らし、シックハウス症候群の原因を作るのは不合理なことです。CM に惑わされないで必要なものだけを買うようにしましょう。

■ファブリーズの除菌成分は塩化ベンザルコニウム

ファブリーズは、成分に除菌成分としか書いてありません。問い合わせたら、第四級アンモニウム塩が使われているという答えでした。たぶん塩化ベンザルコニウムと思われます。陽イオンの界面活性剤で、逆性石けんの成分です。細菌の表面はマイナスなので、この成分のプラスとひきつけあって、細菌の細胞膜を破壊します。

汗くさいのは汗を細菌が分解することで臭いが出てくるので、殺菌して臭いをとるという方法です。香料によるマスキング効果もあります。使うと目の粘膜を刺激します。ちなみに、目薬がしみるのは防腐剤として入っている塩化ベンザルコニウムのためです。私はふつうの目薬は使わないで、使いきりで防腐剤が入っていない目薬を使っています。

洗濯洗剤には成分名の表示があっても、消臭剤にはありません。洗剤は家庭用品品質表示法の対象なので表示がありますが、消臭剤は同法の対象ではないからです。経産省から、消費者庁に法律の管轄が移ったので、表示の対象に加えるよう言っていきましょう。

※ 『買ってはいけない』の著者で、科学ジャーナリストの渡辺雄二さんの講演「身の回りにはこんなに有害物質があふれている」(化学物質問題市民研究会の主催)の話を許可を頂き、掲載させていただきました。渡辺雄二さんの近著『ファブリーズはいらない』(緑風出版)もどうぞ。

<p>塩化ベンザルコニウムとは、陽イオン界面活性剤の一種。水溶液は日本薬局方で逆性石鹼として殺菌・消毒用に用いられる。陽イオン界面活性剤は、リンスやトリートメント、柔軟剤、逆性石鹼など。タンパクの変性力も刺激も強い。生体毒性を持っている。(シャンプーよりリンスのほうがもっと悪いと言われる理由)</p>
--

自然界にはあらゆる菌が存在して、私たちと共生しています。菌を完全に排除するのは不可能です。除菌作用があるのに、人体に害がないはずはありません。

ファブリーズは、成分表示がきちんとされていないことも問題です。『トウモロコシ由来消臭成分』配合と書かれていると天然のような気がしますが、実際に除菌作用をしているのは、化学物質なのですね。

特集 芳香剤・消臭剤・ファブリーズって必要ですか？

【体験談】 ホテル予約でわかったこと・・・日常的に使われているファブリーズ

1、宿泊予約時のお願い

最近人気のできた定山溪温泉のリゾート・スパMというホテルに、宿泊予約のさいに、「部屋に芳香剤や消臭剤を置かないでください。また、ファブリーズなども使用しないでください。」とメッセージを送りました。すると、ホテルのマネージャーから電話が入り、「毎日香りつきのファブリーズを使用しているので、しないわけにはいかない。お客さんの臭いをそれで消臭している。部屋には換気扇もない」と回答がありました。

私が、ファブリーズについてとグリーン購入ネットワークのことをお話ししたところ、あらためて連絡すると言われました。

2、過去の経験

私は、数年前から、宿泊するホテル・旅館に対し、シックハウスや化学物質過敏症の原因になる消毒や芳香剤の使用をしないようお願いしています。特に修学旅行や研修旅行など子どもたちが宿泊する施設に関しては、学校の先生方、旅行会社とともに、使用していない宿を探したり、使用を中止していただくなどの協力をお願いしてきました。

北海道内の一部のペンションや民宿などでは、トイレに消臭剤が使われています。ある地域では、毎年どの消臭剤(芳香剤)にするか、どれが強力かなどと旅館組合で協議するといいます。いまだに、ニオイで臭いを隠そうとしていることは残念です。小樽市内の有名ホテルでも、芳香剤を部屋にまで置いていて閉口したことがあります。それでも、宿泊前に要望を伝えた場合は、全ての宿泊施設が、芳香剤を撤去し、窓明け換気を行い、寝具やタオル類に柔軟剤を使用しない、室内の水拭きなどを快くしてくださいました。また、「他に何かできることはないか」と聞いてくださり、チェックアウトのさいには「大丈夫だったか」と声をかけてくださいました。

3、リゾート・スパMの対応 ～支配人からのメール～

リゾート・スパMでは、最初から「面倒はイヤ」といった感じが前面にでて、こちら話を聴こうという姿勢がありませんでした。そこで、支配人と直接話をしたいとお願いしましたが、いつ電話をかけてもフロントでは、「支配人もマネージャーもいつ帰ってくるか分からない」と言うのです。予約の取り消し期間がせまった頃にやっと支配人から頂いたメールは次のようなものでした。

「化学物質に過敏とのことでございますが、私どもにはその程度が計りかねます。ファブリーズのお話が出ていたようですが、現状は清掃時に使っております。以前は北海道のシソの消臭剤を使っておりましたが、コストと安定供給の難しさがございました。宿泊当日、ファブリーズを使わないということでしたら、可能でございますが、当然、そのようなことだけではないと考えます。(中略)建物も過敏な方には反応が起こるかもしれませんし、リネンサプライも外注にしておりますので、それが過敏なお客様にとつて安心な素材なのかもわかりかねます。せつかくいらしていただき、万が一お加減が悪くなられることは私どもが最も心配するところでございます。私共もお客様に安心で快適なホテル環境をご提供したいのですが、今の現状では化学物質を完全に取り除くことは難しいと考えます。身の回りには数百種の物質が存在し、それが複合的に作用することもご存知かと思われます。私どもお客様のご要望をできるだけお応えしたいと思っておりますが、できること、できないことがございますこともご理解いただきたく総合的なご判断をお願いいたします。」というもの。

「どれほど、あなたたちを泊めるために神経を使わなくてはいけないのか、化学物質を完全に取り除くことなどでできないのだから、やめた方がいいのではないか」と言われているような気がしました。支配人ならまともな話ができると期待していただけに、これ以上のやり取りは意味がないと思いキャンセルをしました。すると、再び支配人から「今後は時間はかかると思いますが、本社とも相談いたしまして、専門家も交えきちんと考えなければいけない課題と思います」というメールが届きました。職場が、人や環境に優しければ、職員もまた多くのことを学び弱者への思いやりも育つと私は思います。

その後、新たに予約しなおした小樽旅亭Kでは、同じ要望に対し、自主的に外注している寝具類の洗剤などもわざわざ調べて連絡をくれました。これは、後に商売としても大きな差となることでしょう。いくら、地場産の野菜を使った美味しい？料理を提供しているといわれても、この対応のあとでは、食材の扱い等に不審を感じずにはられません。リゾート・スパMの支配人の「課題克服」に期待しています。

ホテル・旅館に要望を 「不必要なニオイ、化学物質はいらないです！」

ニオイは人によって好みもあるうえ、香料の害はあまりにも大きいです。(脳神経系に影響、喘息の原因、アレルギーを誘発、内分泌かく乱作用、生殖器への影響、発がん性などなど)。機密性が高く窓を開けられないホテルでは、誰が宿泊するのかわからないのですから有害な化学物質は使用すべきではありません。また、強力な合成洗剤や消毒薬などの使用は絶対に慎むべきです。さらに、従業員の香水やヘアスプレーなどのニオイ、衣類の柔軟剤のニオイも迷惑です。寛ぎに来た宿で、人為的に体調を崩すことは避けたい。

禁煙室が当然のように完備された昨今、ホテル・旅館の経営者は、タバコと同じように芳香剤や洗剤類などの有害化学物質についても知識を深め、常備されているシャンプーやリンスなども誰が使っても安心な「無添加せっけん」に替えるべきです。

化学物質過敏症が病名登録されましたが、その原因物質の多くはこれらの化学物質です。

※ 日常生活からでる有害物質ワースト1位が、防虫剤や芳香剤に含まれる物質。2位と3位は、合成洗剤とシャンプー類に含まれている物質です。

【参考資料】化学物質問題市民研究会 末田一秀 (核のごみキャンペーン関西)消費者レポート 1500 北海道新聞 チェルノブイリのかげはし ナノハナ HPTHINKER 社団法人全国旅行業協会 共同通信社 産経新聞 ウィキペディア 化粧品毒性テーブル 同志社大学西岡一教授監修)他